

パースの花と小バエ

松山久秋

数年前、友人と西オーストラリアのパースに行こうと検討したことがあった。当時は直行便が無く、経由便で時間がかかり過ぎるので諦めた。その後も、鹿児島市の姉妹都市でもあるパースに行きたいと思っていたところ、A社が9月から直行便を開設することを知り、行くことにした。

パースに飛んだのは、10月下旬、ラグビー・ワールド・カップでワラビーズが負けた翌々日。機内は落胆したオージーで満席だった。隣に座った女性は18日間日本に滞在して応援したとのこと。大分でイングランドに負けて、がっかりしてパースに帰るところだった。彼女はパースに30年以上住んでいて、様々なローカルの情報をもらうことができた。

10月下旬のパースは春ただなか。時おりインド洋から来る雲に覆われると肌寒くなったが、

概ね快適な気候だった。オーストラリアに春を告げる花、ジャカランダがパースのあちこちに薄紫色の花をつけていた。ジャカ



(ホテル横のジャカランダ)

ランダはオーストラリア各地で見られる木で、樹高は15メートル程。10月、11月の2ヶ月間、日本の桜よりも長く花を楽しむことができる。

そんなパースで春を告げるものをもう一つ挙げると小バエ。オージーにとって、夏にハエが多いのは当たり前とのこと。ハエを追い払うコルクがぶら下がったハットもあるよし。顔の前で手をヒラヒラすると、確かにハエが寄ってこないの、コルクをぶら下げたハットは効果が

ありそうだ。テレビで有名人がインタビューを受けている最中に口の中にハエが飛び込み、それを吐き出すとかいうのは日常茶飯事だそうだ。

グリーン上でまさにパットを打とうとする時、鼻や耳、目にハエが飛び込んで、う



(背中いっぱいハエ)

っとうしいことこの上ない。自然を愛するオーストラリアでは、殺虫剤は禁止されているのだろうか？ハエを好物にする鳥を増やすとか、何か手はないのだろうか？

10日間の滞在中に7回ゴルフした。コースはゴルフ場案内サイトで評価の高い所を選び、林間コースと日本にはほとんどないリンクス・コースの両方でプレイした。7回ゴルフしたというと驚かれるが、カートでボールの所まで行けるし、4時間ほどでラウンドできるので余り疲れない。パースでは、ほとんどのゴルファーは電動プッシュカートを使い、歩きで回っており、カートに乗る人は少ない。コースの特徴は、ラフが本当のラフ

(手入れをしていないラフ)だから、ボールが無くなること。もう一つの特徴は、リンクス・コースでは、砂地の固いフェアウェイをボールがどこまでも転がって、たこつぽバン



(後ろは海)

カーに吸い寄せられるようになってしまうこと。というわけで、ゴルフの成績は散々だった。しかし、フレンドリーなオージーによく話しかけられ、楽しいゴルフだった。ラウンド途中で、たまたま目が合ったオージーが「今日ボールを

何個なくした？」と聞いてくる。「2個。あなたは？」と返すと、「無くしてない」とニンマリ。なーんだ、聞いて欲しかったのか。

パースで何が一番おいしかったかと聞かれて、フィッシュアンドチップスと答えたら、パースの人に「他にもっとおいしいものが色々あるのに」と怒られそう。でも、パースの南のロッキングハム・ビーチで食べたフィッシュアンドチップスは本当においしかった。それと、スポーツ・バーで食べたオージービーフのハンバーガーも最高だった。

世界で一番住みやすいと言われるパース、レンタカーで 2,000km も走り回って感じた大陸の広さ、暖かい人達、タフなゴルフ場。楽しいことがいっぱいだった。また行きたいな。